

I K U S E I

わくせいの

2023 61



公益社団法人 競走馬育成協会

CONTENTS

■ごあいさつ

「ごあいさつ」

- (競走馬育成協会 会長 大平俊明) ①
○競走馬育成協会役職員人事 ①

■特 集

生産育成牧場就業者参入促進事業 (BOKUJOB)

「BOKUJOB2023 メインフェア」 ②

■行 事

- ①令和4年度「育成等に関する懇談会」を開催 ⑥
②2023年度「定時総会」を開催 ⑨

■事 業

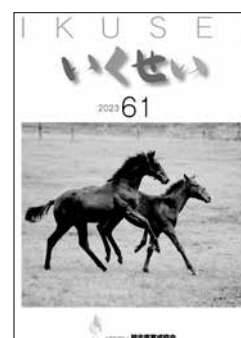
- ①育成技術講習会 ⑩
②育成技術表彰事業 ⑪
③軽種馬生産育成強化資金利子補給事業 ⑮
④競馬関連機材等有効活用事業 ⑯
⑤軽種馬経営高度化指導研修 (人材養成支援) ⑱
⑥軽種馬生産者等経営安定化 (飼料等高騰対策) ⑳

■お知らせ

- 競走馬マイクロチップ埋込推進事業終了のお知らせ ㉑
○賛助会員のご紹介 ㉒
○JRAからのお知らせ ㉓

■巻 末

- 競走馬育成協会ホームページのご案内 ㉔



題字 元会長 小沢一郎
表紙写真 内藤律子

ごあいさつ



(公社) 競走馬育成協会
会長 大平 俊明

今年2月の定時総会において会長理事に選任されました。どうぞよろしくお願いたします。

先ずは当協会の会員の皆様には平素より業務運営にご理解ご協力を賜り御礼申し上げます。さて、ここ数年のコロナ禍で生産・育成の経営状況は物価の高騰、従業員不足等いろいろな問題・課題を抱え決して順風満帆ではないと危惧しているところです。少子高齢化が進み、後継者不足といわれるようになって久しく解消には苦勞されていることと思います。その中で中央・地方競馬が順調に推移しているのは、生産され育成された優秀な若馬を送り出していた

いているところが大きいと感じております。今では世界に通用する日本で生産・育成された競走馬であることは間違いありません。当協会はそういった努力に対し少しでも支援・協力を提供してまいりたいと思います。

最後に簡単に自己紹介させていただきます。昭和28年(巳年)生まれ、大分県出身で現在札幌市に在住です。昭和52年にJRAに入会し、主に馬場や土木関係の設計維持管理を担当し、平成26年から昨年までBTCに在籍しておりました。未熟者ですがどうぞよろしくお願申し上げご挨拶とさせていただきます。

◆ 2023年度 競走馬育成協会役職員人事(3月)

「役員人事」

【退任】

会長理事 栗田 晴夫

【就任】

- ◎会長理事 大平 俊明
- ※前 軽種馬育成調教センター理事長
- ※元 日本中央競馬会 監事
- ◎副会長理事 中内田 克二
- ※現 理事
- ◎理事 岡田 紘和
- ※現 (有)ビッグレッドファーム代表取締役

理事 高橋 司

「JRA 職員人事」

【退任】

業務部長 守山 秀和
事業推進部長 後藤 博英

【就任】

◎業務部長 小野 圭一
◎事業推進部長 上村 剛

※総務部長 太田 啓

◎総務部長 変更なし

中内田副会長理事 ごあいさつ

3月より副会長理事を務めます中内田克二です。

前職は、当協会理事でした。

競馬を支える協会の皆様をサポートし得る協会運営ができるよう微力を尽くして参ります。

どうぞよろしくお願いたします。

岡田理事 ごあいさつ

3月に理事を拝命いたしました岡田紘和です。

ご存知のように、競馬業界における育成牧場の役割は年々重要性を増しております。その中で協会運営に少しでもお役に立てるように努めて参ります。

どうぞよろしくお願いたします。

生産育成牧場就業者参入促進事業(BOKUJOB) 「BOKUJOB2023メインフェア」

「生産育成牧場就業者参入促進事業（BOKUJOB）」を実施する、公益社団法人競走馬育成協会（ARR）、公益社団法人日本軽種馬協会（JBBA）、一般社団法人日本競走馬協会（JRHA）、公益財団法人軽種馬育成調教センター（BTC）及び日本中央競馬会（JRA）の5団体で構成する牧場就業促進事務局は、本年8月で設立満15年となりました。

平成22年度からは地方競馬全国協会が実施している「競走馬生産振興事業」のうち、経営基盤強化対策事業の軽種馬経営高度化研修（人材養成支援）による助成を受け、生産育成牧場就業者参入促進事業（BOKUJOB）を行っております。今回の特集では、BOKUJOBの中核となるイベントであり、2019年度以来4年ぶりに実施した「BOKUJOB2023メインフェア」について報告します。

～馬と生きる。牧場のしごと発見プロジェクト「BOKUJOB」～

牧場就業促進事務局が、6月3日（土）、4日（日）にJRA東京競馬場において、競走馬の牧場への就職に関心をもつ若者向けのイベントである「BOKUJOB2023メインフェア」を開催した。2019（令和元）年までに10回開催してきたメインフェアではあるが、コロナ禍の影響により2020（令和2）年以降は休止し、実に4年ぶりの開催となった。

牧場就業促進事務局では、生産・育成牧場における人手不足の解消と将来に向けた優秀な人材の確保



を目指して活動が続いている。本年3月には「牧場で働こう見学会」を開催し、関東・関西の育成牧場を実際に見学するとともに、関係者から直接説明を受けて仕事への理解と認識を深め、牧場就業への足掛かりとする機会を設けるなどしている。

～4年ぶりの開催となった「BOKUJOB2023メインフェア」～

従来と同様に、安田記念（GI）が開催され、多数の来場者が見込まれる週での開催となった。メインフェアに参加し、出展牧場の担当者と面談することで、生産・育成牧場での就業意欲を高めた参加者が、夏休み期間を利用して、各牧場のインターンシップ、「牧場で働こう体験会2023」や「研修コース合同体験入学会」などに参加しやすくなるようこの時期に開催している。

今年は4年ぶりの開催のため、東京競馬場での出展牧場は23牧場と前回より減少したが、コロナ禍の中で利用頻度が高まった「Web面談コーナー」を設置することで、業務都合などにより現地での出展ができなかった牧場6牧場（土日の両日に出展した牧場は4牧場）がWeb形式によりメインフェアに参加した。新型コロナ対策として各牧場の面談ブース間にパーティションを設置するなどしたため、面談スペースが手狭に感じられたが、隣のブースの声を気にすることなく面談に集中することができたとの意見が、牧場側からも参加者側からも聞かれ、思わぬ

副次的効果が得られた。

例年、参加者には緊張で最初の面談を躊躇する傾向があることに加え、昨今の「ウマ娘」ブームの影響を受けた若年層には、牧場の仕事に具体的なイメージがない者も多いことから、今回はフリースペースとして設けられた「交流コーナー」を活用した。これは、BOKUJOB事務局員が参加者の緊張感を解きほぐすとともに、「生産牧場と育成牧場の違い」や「どのような地域に所在するのか」などを説明することで出展牧場に尋ねたい質問の具体化・明確化を支援したり、希望に合致する牧場のブースに誘導したりするうえで有用であった。その結果、10か所以上の牧場と面談する参加者もあり、限られたスペースと時間のなかで、効率的な面談を行うことができた。

また、出展牧場も、パンフレットやPCなどを使用して視覚に訴える効果的な説明を行うとともに、採用担当者などが面談を行って、就業希望者の不安を解消するよう努めていた。



～研修相談・進路相談コーナー、競走馬のふるさと案内所～

「研修相談・進路相談コーナー」では、JBBA、BTC、JA しずない、北海道静内農業高等学校の4団体が出展するとともに、(公社)日本装削蹄協会がWeb形式で参加し、研修や進路に関する相談を受けた。各ブースとも訪問者は前回を超えるものであった。

JBBA・BTCの面談ブースでは、それぞれの研修内容や寮生活など具体的な説明と質疑が行われた。BOKUJOBを通じ、両団体が行う研修の認知度が上がり、明確な目的を持って面談に臨む参加者が多かった。6月の開催ということもあり、7月以降に開催するJBBA・BTCの「研修コース合同体験入学会」や各々が独自に開催する「体験入学会」への申込も多かった。

北海道静内農業高等学校の面談ブースでは小中学生の参加者と保護者が、牧場への就職を視野に入れたうえで高校進学について熱心に面談する姿が目立った。

「競走馬のふるさと案内所」は入口付近に設置し、数多くの競馬ファンが立ち寄って、出展牧場・研修機関のパンフレットや「牧場見学のルール＆マナー」を手にする姿が見受けられた。





この講演は、当日来場できなかった方のために、オンタイムで配信するとともに、収録映像をアーカイブ化して「BOKUJOB YouTube チャンネル」にて公開している (<https://www.youtube.com/watch?v=NtZhDfU86Ro>)。



～出展牧場からのコメント～

日高町から参加の牧場からは、「4年ぶりの開催となったが、多くの方に参加いただき、有意義な時間となった。参加者の多くは、真剣に牧場就業を考えているように感じた」、茨城県から参加した牧場からは、「想像を超える参加者数でしたが、BOKUJOB YouTube チャンネルの求人牧場紹介動画を見て参加した参加者が多かった。効果が大きいので、今後もSNSでの発信などの取り組みを続けていきたい」とのコメントがあった。また、Web参加となった新ひだか町の牧場からは、「多忙な時期のため、東京競馬場に向向くことが難しいのでWeb出展は継続したい」、「参加者の熱意が高まっている印象を受けた。こちらから一方的に話すケースはほとんどなかった」とする一方、「初めての試みで参加者に浸透していな

～藤沢和雄 JRA アドバイザーの講演から～

今回のメインフェアでは、若者の牧場就労に日頃から関心の高い、藤沢 和雄 JRA アドバイザーがステージに上り、参加者約40名を前にこれまでの経験で培ってきた「馬との付き合い方・接し方」などについて講演した。最後には「牧場就業に関心のある人は是非馬に積極的に話しかけて欲しいし、機会があれば牧場スタッフなどを目指して欲しい」とのメッセージもあり、参加者にとっても貴重な体験となった。





～最後に～

4年ぶりの「BOKUJOB2023メインフェア」は、4年ぶりの開催、初日は天候にも恵まれなかったにもかかわらず、2日間の来場者は、参加者が214名、参加者の保護者・学校関係者が121名、見学者が100名で合計435名と当初の想定を超える来場を得て、成功裏に終了した。これもひとえに出展牧場や Web 参加牧場のご理解とご協力があったからこそで、誌面をお借りして感謝申し上げます。

BOKUJOB は、本年 8 月で節目の15周年を迎えましたが、コロナ禍により休止していたリアルイベントの開催を再開するとともに、この間に伸長してきた Web・SNS を活用した取り組みや情報発信を通じて、牧場の人材確保の支援と牧場就業希望者の後押しを進めて参ります。関係各位におかれては、BOKUJOB 活動への引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。

かった」、「参加者側も出展牧場との直接面談の方が効率的に面談できる」、浦河町の牧場からは、「当初の期待よりは参加者が少なかった」との感想も寄せられた。

なお、関西地方をはじめ多くの出展牧場から関西フェアの再開を望むコメントがあった。



令和4年度「育成等に関する懇談会」を開催

JRAと競走馬育成協会との「育成等に関する懇談会」は平成12年度から継続して開催されています。令和4年度の懇談会は9月30日（金）10時00分からJRA本部403会議室において、JRAから菊田淳馬事担当理事、伊藤幹馬事部長、松田芳和生産育成対策室長ほか担当職員、競走馬育成協会から栗田会長をはじめとした理事と担当職員が出席して開催されました。

開会挨拶

最初にJRA菊田理事より、以下の挨拶がありました。

1. 平素より競馬開催をはじめとする本会事業にご理解とご協力を賜り御礼申し上げます。
2. 昨今、育成の重要性が大きくなり、臨戦態勢もあっていく技術の向上が図られており、育成の力で競馬が押し上げられていると感じているので今後ともよろしくお願い申し上げます。
3. コロナの影響は落ち着きを見せ、育成に携わる方の励みとなっている2歳重賞競走の育成技術表彰が再開、また、JRA競馬場でのBOKUJOBの活動も行えるようになってきている。牧場就業促進については、貴協会の尽力により成果も上がっていると聞いているので今後ともよろしくお願いしたい。
4. JRAの成績については好調であり、特にG I競走が売れている。この機会を生かし競馬全体の底上げが重要になってくると考えているので今後とも協力をよろしくお願いしたい。

続いて当協会栗田会長より、以下の内容の挨拶がありました。

1. ご多忙の中、懇談会を開催くださり感謝する。また、当協会の業務に対する日頃からの助言・指導にあわせて御礼申し上げます。コロナ禍の厳しい状況が継続している中で競馬が無事に開催されていることは、JRAはじめ開催に携わる全ての方々のご尽力の賜物であり、敬意を要するところである
2. 育成牧場も長期化しているコロナ禍の中、世界

レベルの育成調教技術をもって若馬を競馬場に送り出し、休養馬のコンディションを維持することによって出走頭数確保と競馬の発展に寄与していると自負するところである。本日は、人材の確保と養成、育成技術表彰事業、競走関連機材等有効活用事業、その他要望事項について議論させていただきたい。

JRAからの報告

最初にJRAから「JRA育成馬売却結果」「セリ市場の動向」の報告がなされました。

育成等を取り巻く状況とBOKUJOBの活動状況について

次に当協会から以下に記載した「育成等を取り巻く状況について」と「育成牧場における人材確保について（BOKUJOB）」の報告を行い、それらに対するJRAの見解等が示されました。

「育成等を取り巻く状況について」

令和4年はコロナに加え、ロシアのウクライナ侵攻やこれらの影響による物価の高騰、さらには地震や異常気象といった要因に、国の内外、業種を問わず多くの人々が翻弄されてきた。

このような状況にあっても中央競馬は、入場者数を拡大するなど円滑に開催を継続し、業績の伸長を継続している。

育成牧場もサークルの一員として、前述した要因の影響が経営に及ぶなか、中央競馬の開催に必要な役割を担っている。すなわち、トレセン内の厩舎では実施されることのなくなった若馬の初期馴致に加え、ゲートをはじめとする競走馬に必要な素養を付与して新馬戦に備える、さらには出走後、次の競走への臨戦態勢維持のための調整を担うことによって出走頭数の確保に寄与している。とくに、セリが活況で生産頭数が増加するなかにあってもトレセンの馬房数は漸減している近年、高度な技術を有する育成牧場の役割はさらに大きくなり、中央競馬の安定的な開催に不可欠とすることができる。

これらの育成業者が安心して質の高いサービスを提供できる環境の醸成のため、引き続きJRAの強い支援が望まれる。

1. 人材の確保・養成

人材の確保と養成は、競馬サークル全体の深刻かつ喫緊の課題である。とくに軽種馬の生産・育成牧場では、少子高齢化や他業種における雇用環境の改善、競馬学校受験の年齢制限撤廃による人材流出の影響も受け、就労者の獲得に苦慮する状況が続いている。

これに対する取り組みとして、JRAほか関係5団体で構成する事務局を当協会に置き「競走馬の生産育成牧場への就業者参入促進事業（BOKUJOB）」を展開している。その成果は着実に現れてきてはいるものの、新規就業者を雇用し、育成牧場で求められる騎乗技術を十分に身に付けさせるまでには相当の期間を要することから、養成は容易でなく、加えて、折からの物価高騰にあっても預託料の抑制が求められるなか、待遇や労働環境の改善も思うに任せず、優秀な人材の中央競馬厩舎への流出が続き、その防止にも苦慮している。

好況な競馬の恩恵に与ることで育成牧場の経営基盤が強化され、就労者により良い労働条件を提示することで定着が図られるよう、引き続きJRAの物心両面での支援をお願いしたい。

2. 育成技術表彰

育成技術表彰事業は、デビュー前の若馬の調教や競走間の調整など、育成の成果に対する評価として会員の期待には極めて大きいものがある。

JRAの助成による褒賞費は平成21年以降、育成技術表彰規程に定める原則単価100,000円を下回っている。平成30年以降は、助成総額について毎年増額が図られているものの、令和3年も会員が育成した馬の勝利数が増加、該当率も引き続き高水準であったことから、褒賞単価は72,560円（令和2年度65,7500円）に留まっている。令和4年も引き続き総額の増額をいただいているが、単価は依然、100,000円にはほど遠い状況にある。

育成業者には、生産者賞のような競馬からの直接的恩恵はなく、本褒賞金はいわば唯一のインセンティブであり、モチベーションの源ともなっている。優れた育成業務に報いるために、本制度に対する一層の理解を要望したい。

一方、コロナ禍により2年間実施できなかった2歳重賞6競走のウイナーズサークルにおける会員表彰は、各方面の協力の下、再開を果たしている。本制度も会員の大きな励みとなっているものであり、引き続きのご理解と対象競走の拡大についても検討願いたい。

3. 育成牧場の経営基盤強化

牧場の経営安定には、効果的な設備投資が不可欠であるが、育成牧場は耕作農業等に対する公的融資制度を利用することができない状況である。そこで、当協会では会員牧場の経営基盤強化の一助とすることを目的に、以下の2事業を実施している。

まず、利子補給事業については、長引く低金利時代を設備投資の好機と捉えてか、平成29年以降の5年間で14件の新規交付、令和4年度も既に1件の交付と2件の申請があった。償還期間が20年の長期であることから今後も活用が見込まれ、本制度の安定的な運用が重要である。

もう一つの競馬関連機材等有効活用事業は、JRAをはじめとした関連団体の協力のもとに実施している。本事業は、牧場独自での購入が難しいような機材を入手する機会を得られることから会員の関心は非常に高く、抽選倍率も年々増加している。今後もより多くの機材を育成牧場で有効活用できるよう、一層のご協力を賜りたい。

JRAの見解と懇談内容

1. 人材の確保・養成について

人材の確保は競馬サークル全体の課題であり、一人でも多くの若者の就業が望まれる。JBBA、BTCの研修機関にも定員を増やす努力をしてもらっており、研修への応募状況も非常に良いが、選考から漏れた者へのケアが課題と考えている。人手不足については大きな課題と受け止めていることから、JRAとしても今後とも協力・支援を惜しまずに続けていく。

2. 育成技術表彰事業における褒賞金について

JRAとして「育成技術表彰事業」の重要性は認識しており、褒賞費予算については、平成22年から平成29年までは据え置きであったが、平成30年から5年続けて増額している。令和5年度についても増額する方向で各所と調整を行っている。

また、JRA競馬場における2歳重賞競走での育成技術表彰については、4競走が無事に終了したと聞

いている。残りの2競走も競馬場と連携をとってま
いりたい。

3. 育成場の基盤強化対策について

経営基盤強化については、軽種馬生産育成強化対
策資金をご活用いただきたい。また、「競馬関連機材
等有効活用事業」については、来年度以降について
も継続して実施できるよう努力をしていきたい。

以上のような見解が示されました。

これらのテーマについては以上のような内容であ
りましたが、この懇談会は比較的自由的な意見交換が
できるように設定されており、この他にも、以下の
ような内容について意見交換がなされました。

【トレセン近郊における育成調教施設の必要性】

(育成協会) 日本馬が海外で活躍し競馬熱が高まっ
ていることは喜ばしい。これには育成牧場の役
割が不可欠であるが、10頭規模の育成牧場でこ
のレベルの育成を行うことは容易ではない。難
しいことは承知しているが、中小規模の牧場にも
夢を与えることもふまえて協会としてお願い
したい。昨年も同様の要望をしたところである
が、日本の競走馬育成のレベルアップはJRAの
協力なしには叶わない。

(JRA) 昨年と同じ話となるが、費用・場所・構造
など長期的な展望で考えていかななくてはならな
いと思っている。ご意見として承りたい。

(育成協会) BTCのような施設をつくるのが難し
ければ、両トレセンを利用することはできない
か。新しい施設は欲しいが、別の方法があれば
検討願いたい。

(JRA) 一緒に考えていきたいと思う。

【施設および設備に対する補助事業】

(育成協会) こちらも昨年も要望したところ。数年
前は厩舎・洗い場・体重計などに補助があった。
新設以外に改修費用、医療機器の導入なども補
助対象となるようお願いしたい。

(JRA) 以前、地方競馬全国協会から補助事業があっ
たと認識している。軽種馬生産育成強化資金利
子補給事業では厩舎や馬場の改修やウォーキン
グマシンも対象なのでご活用いただきたい。昨
年も同様のご要望をいただいております。予算面・
運用面について関係各所と検討したい。

(育成協会) 医療機器の中には持ち運びが困難なも
のがあり、牧場がそれぞれ所有することができ
ればと思う。トレセンにある機器の育成牧場へ
の導入もしばしば要望される。今の育成牧場は
調教技術だけでなく治療技術も求められている。
是非ご検討いただきたい。

(育成協会) 予算の確保が難しいことは承知してい
るが、活用できる資金があれば中期育成や生産
などに事業を拡大できる牧場もあることと思う。

(JRA) 皆様にお役に立てる事業にしたいと思う。
引続き検討したい。

【トレセン厩舎従業員について】

(育成協会) 育成牧場に限らず、数年後にはトレセン
でも人材不足が生じると危惧されている。この
問題は、生産者、育成牧場、調教師、馬主など
いずれかを切り離して考えることはできない。
関係者が忌憚のない意見を交換し、実情を理解
して対処法を検討する場を設けられないものか。
競馬界を盛り上げるのは人材である。

(JRA) どの立場も人材不足である。個人的には、競
馬界全体で協議をすることは良いことだと思う。

(育成協会) そう言っていただけると心強い。育成協
会と調教師会が話す機会があれば非常に良いこ
と。また、この懇談会も年1回ではなく複数回
開催してはどうか。今はコロナもあり対面で話
をする機会が少なくなっている。

(JRA) 対面で話をする機会が増えることは悪いこ
とではないと思う。

(育成協会) 関西支部と調教師会では、年数回意見交
換することになっている。

調教師会、厩務員クラブなどの担当者と同じテー
ブルで実情を話すことができればと思う。仕切
れるのはJRAしかない。よろしく願いたい。

(JRA) できるところから進めていければと思う。

2023年度「定時総会」を開催

2023年度定時総会は、2月17日（金）14:00から日本中央競馬会本部4階会議室において開催されました。

3年ぶりの通常開催であり、栗田会長の挨拶冒頭では出席者に対し、コロナ禍における総会開催への協力に謝意が表されました。続いて、困難な状況下における中央競馬の開催とその盛り上がりへの本協会々員の貢献に対する敬意が示されたうえで、育成技術表彰対象560競走中、会員が351勝であったとの実績報告、開催が見送られてきた育成技術講習会やBOKUOBのサポートデスクの再開など令和4年度事業のトピックが紹介されました。今年度以降については、東京競馬場でのメインフェアをはじめとしたイベントについても開催を模索するなどしながら、育成業界全体の基盤強化に資する事業を展開するとの意向が表明されました。

引き続き、議長に荻野豊氏が選出され、以下の議案が審議、原案のとおり承認されました。

第1号議案「令和4年度事業報告及び令和4年度財務諸表について」

第2号議案「2023年度会費等の額及び徴収の方法について」

第3号議案「役員報酬等の支給に関する規程の改正について」

第4号議案「理事及び監事の選任について」

選任された役員

役職	氏名	備考
理事	大平俊明	新任会長
理事	和田信也	副会長（常務理事兼任）
理事	中内田克二	副会長
理事	飯田正剛	
理事	荻野豊	
理事	岡田紘和	新任
理事	沖崎誠一郎	
理事	柏木務	
理事	宮島成郎	
理事	織田信美	
監事	五島崇	
監事	岩崎幸治	

※栗田晴夫氏および高橋司氏は総会をもって退任されました。

※会長、副会長および常務理事については、定時総会終了後の臨時理事会において選定されました。

育成技術講習会

令和 4 年

育成技術講習会は JRA、BTC および当協会の 3 団体共催での講習会として、以下の通り開催しました。コロナ禍のために残念ながら一部に開催中止となったものもありますが、開催されたものについては会員の皆様より好評をいただきました。中止となったものの代替として、JRA 主催の Web セミナー（第16回競走馬スポーツ科学セミナー）への参加を案内するとともに、HP 上で東北地区および九州地区での講習会動画を公開しました。

○東北地区

9月8日(木) 13:30~15:00

八戸家畜市場

演題：「繁殖学に基づいた繁殖牝馬の管理方法」

(基礎～応用、不受胎時の対応、最近のトピックスなど)
講師：JRA 日高育成牧場 生産育成研究室 研究役 村瀬晴崇氏
BTC 主催



○北海道地区

10月20日(木) 17:30~19:15

(公社) 日本軽種馬協会 静内種馬場

演題：「馬と折り合うための技術～実馬を用いた講習会～」
講師：JRA 馬事公苑 上席調査役 北原広之氏、普及課 吉澤和紘氏、
西脇文泰氏
競走馬育成協会主催

○関西地区

厩舎研修会は開催されたが、育成協会からの参加は認められなかった。
同時期開催の北海道支部での講習会動画を HP に掲載し提供

○九州地区

9月28日(水) 13:30~15:00

(公社) 日本軽種馬協会 九州種馬場

演題：「繁殖学に基づいた繁殖牝馬の管理方法」

(基礎～応用、不受胎時の対応、最近のトピックスなど)
講師：JRA 日高育成牧場 生産育成研究室 研究役 村瀬晴崇氏
BTC 主催



○関東地区

厩舎研修会は開催されたが、育成協会からの参加は認められなかった。
同時期開催の北海道支部での講習会動画を HP に掲載し提供

令和 5 年

令和 5 年度の開催については10月 1 日現在で以下の通りの開催を実施、予定しておりますが、新型コロナウイルス感染拡大防止等の観点から変更となる場合があります。実施の有無および予定の変更については、随時協会 HP を通じてお知らせします。

○東北地区

9月7日(木) 13:30~15:00

八戸家畜市場

演題：「軽種馬生産に影響を及ぼす様々な細菌感染症～その原因と対策～」

(▶ロドコッカス・エクイ▶サルモネラ▶ローソニア etc.)
講師：JRA 競走馬総合研究所 微生物研究室 主任研究役 丹羽秀和氏
BTC 主催



○北海道地区

(予定) 10月4日(水) 18:00~19:30

新ひだか町公民館・コミュニティセンター

演題：「競走馬のトレーニングについて」

講師：JRA 美浦 TC 競走馬診療所 上席臨床獣医役 大村一氏
競走馬育成協会主催

○関東地区

(予定) 11月22日(水)

JRA 美浦 TC

JRA 主催

10月 1 日現在、詳細未定

○九州地区

9月27日(水) 13:30~15:00

(公社) 日本軽種馬協会 九州種馬場

演題：「軽種馬生産に影響を及ぼす様々な細菌感染症～その原因と対策～」

(▶ロドコッカス・エクイ▶サルモネラ▶ローソニア etc.)
講師：JRA 競走馬総合研究所 微生物研究室 主任研究役 丹羽秀和氏
BTC 主催



○関西地区

(予定) 11月29日(水)

JRA 栗東 TC

JRA 主催

10月 1 日現在、詳細未定

育成技術表彰事業

1. 育成技術表彰事業について

- (1) 平成11年11月29日制定「育成技術表彰規程」により、平成12年度から現在の表彰事業が重賞競走を対象に開始されました。
- (2) 平成13年度には、育成段階の成果が反映され易いと考えられる新馬競走が表彰対象に加わり、重賞競走とともに表彰が行われてきました。更に、順次表彰対象の拡充・充実が図られ、平成31年度（令和元年度）にはリステッド競走が新たに対象となりました（表1）。

2. 令和4年度の表彰事業について

- (1) 令和4年度の表彰件数は、対象560競走のうち351競走でした。該当率については、特に2歳新馬競走で80.9%、2歳重賞（含交流）・リステッド競走で90.0%と高い該当率を維持しており、対

象競走全体でも62.7%と高い水準を維持する結果となりました。

- (2) 令和4年度の表彰対象者は、表3の通りです。

3. 令和5年度の実施について

- (1) 表彰要件等については、昨年から変更はありません（表2）。
- (2) 平成20年度に実現した重賞2歳ステークス競走の施行場における育成者表彰対象については、一昨年はコロナ禍で中止を余儀なくされていましたが、昨年より一部制限はあるものの復活し、本年は通常通り函館・新潟・札幌・小倉競馬場の各2歳ステークス4競走で実施されました。11月に施行される京王杯・デイリー杯についても実施予定です。

表1. 育成技術表彰事業の推移

区分	表彰対象及び拡充の経緯	(表彰件数)	区分	表彰対象及び拡充の経緯	(表彰件数)
平成12年度	2歳重賞・3歳重賞 障害重賞・3歳(4歳)以上重賞競走の3歳馬・ダート重賞交流競走(3・4歳限定)	39件	平成22年度		230件
平成13年度	2歳新馬競走	147件	平成23年度		229件
平成14年度		163件	平成24年度		250件
平成15年度	特定の重賞競走、表彰要件の緩和(育成期間5ヶ月以上)	125件	平成25年度		232件
平成16年度	3歳新馬競走	195件	平成26年度		272件
平成17年度		185件	平成27年度		280件
平成18年度	3歳オープン競走	201件	平成28年度		275件
平成19年度		213件	平成29年度		284件
平成20年度		218件	平成30年度		295件
平成21年度		225件	平成31(令和元)年度	リステッド競走	338件
			令和2年度		332件
			令和3年度		353件
			令和4年度		351件

表2. 令和5年度の実施について

種目	表彰要件(注1、2)	賞金	備考
1. 新馬競走 2歳新馬競走 3歳新馬競走	満1歳になる年度の9月1日~12月31日までの間に騎乗馴致を開始し、翌年の5月31日までの期間に継続して150日以上育成し、優勝した馬を育成した正会員	原則10万円	ただし、賞金総額が予算額を上回った場合、単価切り下げを実施。
2. 2歳重賞競走等 (1) 2歳重賞競走 (2) 2歳重賞指定交流競走(地方競馬施行) (3) 2歳リステッド競走			
3. 障害重賞競走	継続して60日以上障害調教を行った馬であって、トレセン等入厩後42日以内に障害試験に合格し、優勝した馬を育成した正会員	原則10万円	ただし、賞金総額が予算額を上回った場合、単価切り下げを実施。
4. 平地重賞競走等(2歳限定競走を除く) (1) 平地重賞競走 (2) 平地リステッド競走	トレセン等入厩直前に、継続して14日以上育成調教を行った馬であって、トレセン入厩後30日以内に優勝した馬を育成した正会員		
5. 1~4以外の平地オープン競走(2歳及び3歳限定競走を除く)			

注1. 前年度の12月31日現在、当協会の正会員であること。

注2. ただし、障害重賞競走にあつては、障害調教開始日現在において、当協会の正会員であること。

表3. 令和4年度 育成技術表彰対象会員一覧

会員名	代表者名 (敬称略)	地域	表彰件数													会員 番号				
			合計	新馬		2歳重賞・リステッド				2歳交流重賞			3歳以上重賞・リステッド				障害 重賞	3歳 以上 オープン		
				3歳	2歳	G I	G II	G III	L	JPN I	JPN II	JPN III	G I	G II	G III 重賞				L	
ノーザンファーム	吉田 勝己	北海道	83	10	66	2		2	1							1	1			1056
社台ファーム	吉田 照哉	北海道	52	4	46					1		1								1033
(株) レッキスホースパーク	吉田 俊介	関西	31											3	7	6	4		11	4027
(株) マロ-インク'ライズ' 大山ヒルズ	前田 幸治	関西	16	2	9		2								1	1	1			4031
(株) 吉澤ステーブル	吉澤 克己	北海道	12	4	7				1											1096
(有) 下河辺牧場	下河辺 行雄	北海道	11	1	7	1		2												1032
ノーザンファーム天栄	吉田 勝己	東北	10											2		4	3		1	2017
(有) フジワラファーム	藤原 俊哉	北海道	9	2	7															1103
追分ファーム	吉田 晴哉	北海道	7		6		1													1003
(有) ビッグレッドファーム	岡田 美佐子	北海道	7	1	6															1073
(有) 坂東牧場	坂東 正積	北海道	6	3	3															1065
(有) ファンタストクラブ	古岡 宏仁	北海道	6	1	4				1											1075
(有) 三嶋牧場	三嶋 昌春	北海道	6	1	5															1087
(株) シュウジデイファーム	石川 秀守	北海道	6		6															1100
(有) 千代田牧場	飯田 正剛	北海道	5		5															1048
(株) 森本ステーブル	森本 敏正	北海道	5		5															1091
社台ファーム山元トレーニングセンター	吉田 照哉	東北	5										2	1	2					2024
(株) 吉澤ステーブルWEST	吉澤 克己	関西	7												1	2			4	4029
(有) ノルマンディーファーム	岡田 牧雄	北海道	4	1	3															1104
(有) 宇治田原優駿ステーブル	八木 秀之	関西	4											1	2				1	4005
(有) グランドファーム	衣斐 浩	北海道	3		2			1												1020
(有) グランド牧場	伊藤 佳洋	北海道	3		2					1										1021
(有) 日高軽種馬共同育成公社	鳴海 修司	北海道	3	1	2															1070
(有) ケイアイファーム	中村 祐子	北海道	3		2														1	1023
(株) グリーンウッドパーク	清水 文徳	関西	3													2			1	4008
(株) エクワインレーシング	瀬瀬 賢	北海道	2		1										1					1035
(有) 谷川牧場	谷川 貴英	北海道	2	1	1															1045
(株) 西山牧場	西山 茂行	北海道	2		2															1053
追分ファーム山元トレーニングセンター	吉田 晴哉	東北	2												1	1				2025
吉澤ステーブルEAST	吉澤 克己	関東	2												1	1				3041
(有) チェスナットファーム関東支部	広瀬 亨	関東	3													1			2	3047
松風馬事センター	諸岡 慶	関東	2													1			1	3035
(有) 山岡トレセン	山下 繁美	関西	2		1														1	4022
(株) 小国ステーブル	小国 和紀	北海道	1		1															1012
(株) 加藤ステーブル	加藤 貴子	北海道	1	1																1016
(有) キタジョファーム	北所 直人	北海道	1	1																1018
(有) 高昭牧場	上山 泰憲	北海道	1	1																1025
(有) コスモビューファーム	岡田 亜希子	北海道	1	1																1026
(株) 白井牧場	白井 岳	北海道	1		1															1034
田口トレーニングファーム	田口 廣	北海道	1		1															1041
(有) 武田ステーブル	武田 茂男	北海道	1	1																1042
チームブレアデス	星野 純一	北海道	1								1									1049
(有) 日進牧場	谷川 彰久	北海道	1	1																1054
錦岡牧場	土井 久美子	北海道	1		1															1058
(有) ビクトリーホースランチ	荻野 史子	北海道	1		1															1069
(株) アクティブファーム	加藤 祐嗣	北海道	1	1																1097
(株) 吉永ファーム	吉永 正志	北海道	1		1															1102
富田ステーブル	富田 源太郎	北海道	1		1															1106
育成牧場ブルーステーブル	岩淵 哲雄	関東	1										1							3011
(株) 大瀧ステーブル	大瀧 啓之	関東	1															1		3018
(有) ビッグレッドファーム銚田TC	岡田 美佐子	関東	1													1				3038
(株) Tomorrow Farm	齋藤 野人	関東	1		1															3044
(株) ケイツーステーブル	菅野 和人	関東	1													1				3054
(株) 朝宮ステーブル	下野 隆宗	関西	1													1				4006
(有) 栗東ホース具楽部	井之口 二三雄	関西	1													1				4024
グリーンファーム(株)	宮嶋 真也	関西	1											1						4025
(有) 山下牧場	篠原 一記	九州	1		1															5020
(株) フォレストヒル	金山 敏也	関西	2																2	4032
(有) 坂本企画KSTトレーニングセンター	坂本 幸子	関東	1																1	3014
表彰件数 合計		59会員	351勝	39	207		12		2		4				39		21	1	26	353
対象競走 合計			560競走	45	256		14		2		4				115		61	10	53	560
該当率			62.7%	86.7%	80.9%		85.7%		100.0%		100.0%				33.9%		34.4%	10.0%	49.1%	
対象競走				3歳新馬	2歳新馬		2歳重賞・リステッド			2歳交流重賞				3歳以上重賞・リステッド			障害		オープン	

2022年度 2歳重賞競走の施行競馬場における表彰

※ 11月以降

日付	曜	場所	回	競走名	G	馬名	性	会員番号	牧場名	備考	(肩書)
11/5	土	東京	第58回	京王杯 2歳ステークス	II	オオバン ブルマイ	牡	4031	(株)マエコーエンター プライズ大山ヒルズ	栗田晴夫 会長理事	
11/12	土	阪神	第57回	デイリー杯 2歳ステークス	II	オール パルフェ	牡	1003	追分ファーム	中内田克二 理事	関西地域団体 (支部)長

2023年度 2歳重賞競走の施行競馬場における表彰

日付	曜	場所	回	競走名	G	馬名	性	会員番号	牧場名	備考	(肩書)
7/15	土	函館	第55回	函館 2歳ステークス	III	ゼルトザーム	牡	1075	(有)ファンタストクラブ	荻野豊 理事	北海道地域 団体(支部) 副支部長
8/27	日	新潟	第43回	新潟 2歳ステークス	III	アスコリピ チェノ	牝	1056	ノーザンファーム	沖崎誠一郎 理事	関東地域団体 (支部)長
9/2	土	札幌	第58回	農林水産省賞典札幌 2歳ステークス	III	セットアップ	牡	1103	(有)フジワラファーム	大平俊明 会長理事	
9/3	日	小倉	第43回	小倉 2歳ステークス	III	アスク ワンタイム	牡	1003	追分ファーム (リリーパレー)	柏木務 理事	九州地域団体 (支部)長





令和5年7月15日(土) 函館競馬場

第55回函館2歳ステークス(GⅢ)

優勝馬 ゼルトザーム(牡)

表彰会員名【1075】(有)ファンスタクラブ

プレゼンター：荻野 豊 理事

〔北海道地区団体(支部)支部長〕

令和5年8月27日(日) 新潟競馬場

第43回新潟2歳ステークス(GⅢ)

優勝馬 アスコリピチェーノ(牝)

表彰会員名【1056】ノーザンファーム

プレゼンター：沖崎 誠一郎 理事

〔関東地区団体(支部)長〕



令和5年9月2日(土) 札幌競馬場

第58回農林水産省賞典札幌2歳ステークス(GⅢ)

優勝馬 セットアップ(牡)

表彰会員名【1103】(有)フジワラファーム

プレゼンター：大平 俊明 会長

令和5年9月3日(日) 小倉競馬場

第43回小倉2歳ステークス(GⅢ)

優勝馬 アスクワнтаイム(牡)

表彰会員名【1003】追分ファーム(リリーバレー)

プレゼンター：柏木 務 理事

〔九州地区団体(支部)長〕



軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業は、公益財団法人全国競馬・畜産振興会の助成を受け、軽種馬経営の強化安定に資する目的により、協会会員を対象に軽種馬の育成調教に係る施設、機械、草地等の経営環境の整備・改善に必要な資金を融通する融資機関に対して利子補給を行うものです。

本事業における貸付対象は、大きく以下の3種類に分類されます。

①生産育成施設整備資金

厩舎、馬場、放牧柵およびその他協会が認める生産育成施設の改良、造成または取得に必要な資金

②生産育成機械等取得資金

牧草収穫調整用機械、農用地改良造成用機械、馬運車を含む運搬用機械、糞尿処理施設等環境汚染防止施設およびその他協会が認める生産育成用機械の改良、造成または取得に必要な資金

③草地更新等整備資金

草地更新等整備に必要な資金

本事業は、平成5年より国が実施する農業近代化資金制度に準じた形態で実施していますが、平成22年までは9件の利用実績にとどまっていた。

しかし、長引く低金利時代を設備投資の好機と捉えてか、令和4年度はさらに新規3件の交付申請があり、現在15案件に交付しています。令和5年度もすでに2件の申請があり、下半期から交付の予定です。

これまで利用実績のある融資機関としては、北海道銀行早来支店、北洋銀行静内支店、日高信用金庫

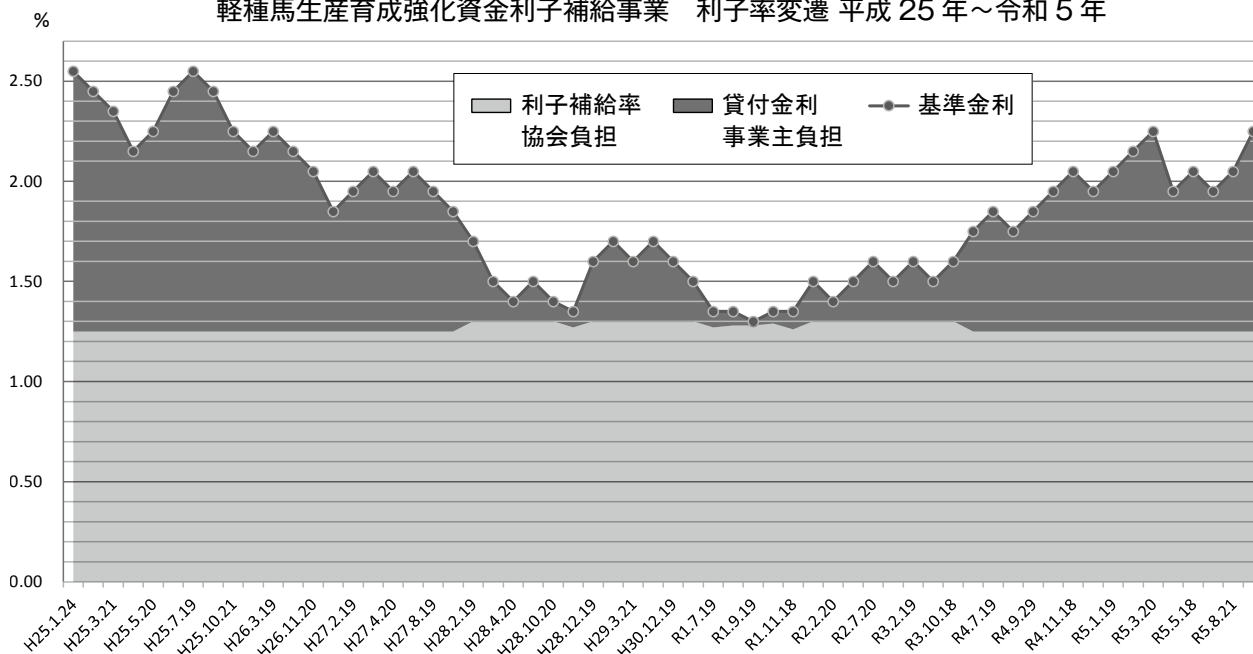
本店営業部ならびに静内支店、常陽銀行美浦支店、筑波銀行美浦支店、滋賀県信用農業協同組合連合会、滋賀銀行八日市東支店および関西みらい銀行信楽支店があります。

本事業のご利用を検討されている会員は、協会業務部までご連絡ください。

融資状況（令和5年9月1日現在）

承認年	地区	承認額 (千円)	基準金利	利子補給	貸付金利
平成22年	関西	110,000	2.50%	1.25%	1.25%
	関西	300,000	2.70%	1.25%	1.45%
平成29年	北海道	144,000	1.40%	1.30%	0.10%
	関東	300,000	1.40%	1.30%	0.10%
	関東	40,000	1.40%	1.30%	0.10%
	関東	43,000	1.60%	1.30%	0.30%
	関西	3,500	1.60%	1.30%	0.30%
	北海道	80,000	1.60%	1.30%	0.30%
平成30年	北海道	85,000	1.60%	1.30%	0.30%
令和元年	関東	100,000	1.50%	1.30%	0.20%
	関東	25,900	1.35%	1.28%	0.07%
令和2年	関東	9,890	1.50%	1.30%	0.20%
	関西	100,000	1.60%	1.30%	0.30%
令和3年	北海道	10,000	1.60%	1.30%	0.30%
	北海道	6,500	1.60%	1.30%	0.30%
	北海道	16,000	1.50%	1.30%	0.20%
令和4年	北海道	96,780	1.75%	1.25%	0.50%
	北海道	50,000	1.75%	1.25%	0.50%
	北海道	100,000	2.05%	1.25%	0.80%
令和5年	北海道	40,960	2.05%	1.25%	0.80%
	関西	220,000	1.25%	1.25%	0.00%

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業 利率変遷 平成25年～令和5年



競馬関連機材等有効活用事業

競馬関連機材等有効活用事業は、会員の育成調教施設用機材の投資負担を軽減して経営の安定化を図ることを目的に、平成15年より JRA および関連団体で使用を取りやめた競馬関連機材等について提供を受け、会員への再利用を斡旋（有償、無償）しています。

令和4年度においても1月の第1回に続き、10月に14件もの募集が実現し、すべて会員に配付されました（一部応募数が募集数を上回る機材の配付については、監事立会いのもとで厳正なる抽選を実施し、配付する会員を決定しています）。募集要項および結果等の詳細については、随時協会ホームページに掲載しておりますのでご確認ください。

令和5年度におきましても、秋季を目途に募集して提供される機材の情報提供を行うべく準備を進めておりますので、各地域団体（支部）からのお知らせおよび協会ホームページをご確認ください。

ご注意ください！

以下の会員は応募をお控えください！

本事業は、有償・無償を問わず、事業の主旨にご賛同いただいた提供者様のご協力により実施されております。今後も本事業を継続していくため、以下に該当する会員については応募をお控えください。

- ・機材情報に記載された機材の状況・不具合等について、承諾できない会員。
- ・配付の確定後、速やかに指定された機材提供者に連絡し、引取り等の相談をすることが困難な会員（引取り等については、会員自らが機材提供者と直接の連絡を取ることが必要です）。
- ・平日の1日以上、電話に応答できないまたは折り返しの返答が困難な会員。
- ・自ら機材を引取る、または引取り業者を手配し、引取り等を調整することが困難な会員。
- ・車両等、移譲の手続きが必要な機材において、速やかに名義変更等の手続きをとることが困難な会員。
- ・提供される機材の全ての引取りが困難（一部のみの引取りのみを希望する）である会員。
- ・その他フォーマットに記載の事項に承諾できない会員。

ご協力をお願いいたします。

応募に際し、必ず事前に協会ホームページ内の本事業実施要領および募集に係る注意事項をご一読、記載内容についてご了承いただいたうえで応募されますようお願いいたします。無抽選の場合を除き、同年度内に一会員一機材限りの配付となります。また、前回の募集で同種機材の抽選に漏れた会員に限り、同種機材への優先倍率が適用（1回限り）されます。提供される機材により、残存減価償却費相当の有償機材であること、使用に際して修理を要する機材であること、特殊機械等の理由から高額な輸送費負担が生じる機材である場合があります。原則として抽選予定日以降のキャンセルはできませんので、熟考の上でご応募くださいますようお願いいたします。

今後も、JRA、JRAF ならびに JSS 関係者の皆様のご協力を賜り、ご提供いただける機材の情報収集に努めてまいります。

競馬関連機材等有効活用事業対象機材の抽選結果

① 令和4年度・第2回〔10月6日(木) 14件〕

通番	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
1号	ウニモグ・競馬学校1号	1台	ハロー曳用等	平成17年 (2005)	無償	6	3	2	-	関西
2号	ウニモグ・競馬学校2号	1台	ハロー曳用等	平成15年 (2003)	無償	3	3	0	-	関東
3号	トラクター・MSK社製・ 中山	1台	ハロー掛け	平成16年 (2004)	無償	17	4	1	14	関東
4号	トラクター・栗東	1台	ハロー掛け	平成24年 (2012)	¥1,400,000	28	5	2	25	北海道
5号	ワゴン車(10人乗り)・栗東	1台	移動用	平成24年 (2012)	¥680,000	5	1	1	5	関西
6号	軽自動車(ワンボックス)・ 美浦8号	1台	移動用	平成23年 (2011)	¥64,310	9	5	0	4	北海道
7号	軽自動車(ワンボックス)・ 美浦9号	1台	移動用	平成23年 (2011)	¥64,310	10	5	0	5	北海道
8号	軽自動車(ワンボックス)・ 美浦10号	1台	移動用	平成23年 (2011)	¥64,310	12	4	3	11	関東
9号	タインハロー・小倉	1台	ハロー掛け	平成8年 (1996)	無償	1	0	0	1	北海道
10号	タインハロー4m・栗東	1台	ハロー掛け	平成19年 (2007)	無償	1	0	0	1	関西
11号	馴致用発馬機3枠・福島 No.57	1台	馴致用	平成18年 (2006)	¥11,000	10	1	4	13	北海道
12号	馴致用発馬機4枠・札幌 No.58	1台	馴致用	平成18年 (2006)	¥11,000	11	3	4	12	北海道
13号	馴致用発馬機4枠・札幌 No.59	1台	馴致用	平成18年 (2006)	¥11,000	10	2	4	12	北海道
14号	FRP角馬場柵・東京	1式	走路柵	平成18年 (2006)	無償	7	2	1	6	北海道

- ※ 優先倍率の適用について：前回、同種機材の抽選に外れた取得希望会員に対し、今回の抽選に限り2個の玉を投入した。
- ※ 1号：令和元年度の募集において、取得者となったにも関わらず機材故障により取得に至らなかった4005(尙)宇治田原優駿ステーブルに優先取得権を付与した(令和2年4月8日の決定)。
- ※ 2号：応募者すべてが選定除外対象者であったため、要領第6条8項により取得者を決定した。
- ※ 9号、10号：応募が1件であったため、無抽選で取得者を決定した。取得者については、要領第6条5項によりそのほかの機材について選定から除外した。

軽種馬経営高度化指導研修（人材養成支援）

当協会では、平成22年度から地方競馬全国協会が実施している「競走馬生産振興事業」のうち、経営基盤強化対策事業の軽種馬経営高度化指導研修（人材養成支援）により助成を受け、生産・育成技術者の海外派遣研修事業をはじめ以下の3事業を引き続き実施しています。

1. 生産育成技術者海外派遣研修事業

この事業は、海外研修に係る諸経費（交通費、研修費、宿泊費等）の1/2を上限に補助金を交付するものです。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、令和2年度から昨年度まで全ての海外派遣研修の実施を見合わせてきましたが、欧米諸国への渡航制限も解除されたことから、2023年度から海外派遣研修を再開しました。

2023年度は、（公財）軽種馬育成調教センターから推薦のあった同センター第40期修了生1名を5月9日から8月3日までの約3か月間の日程でアイルランドへ、九州支部から推薦のあった者1名を9月6日から11月30日までの約3か月間の日程でイギリス等3か国へ、それぞれ派遣しています。

また、会員関係者を対象にした短期研修については、希望者が最少催行人員に達しなかったことから、実施を見合わせました。

なお、長期研修については、随時受付けています。研修制度の詳細は、協会ホームページをご覧ください。

2. 修学奨励金交付事業

国内軽種馬関係機関が国内の軽種馬生産・育成の仕事に就くための者を養成する目的で設置した研修施設で教育を受けようとする者のうち、勉学意欲がありながら経済的理由により修学が困難な者に対して修学奨励金を交付する事業で、現在は（公社）日本軽種馬協会静内種馬場、（公財）軽種馬育成調教センターおよび協会が特に指定する研修所で研修を受講する者について、審査のうえ交付対象者としています。2023年9月までの承認件数は、合計6件でした。

3. 生産育成牧場就業者参入促進事業

軽種馬の生産育成調教分野で働く人材を確保するため、多くの若者に生産育成調教の現場を紹介することにより就業者の参入を促進する事業です。

「BOKUJOB メインフェア」（詳細は特集ページをご覧ください）を中心に日帰り見学会や夏休み期間を利用した滞在型体験会等のイベント実施、競走馬生産・育成牧場就業応援サイト「BOKUJOB.com」による生産・育成牧場の求人情報や仕事内容等の情報発信を主な活動としており、2023年度の活動状況は以下のとおりです。

1) 「牧場で働こう見学会」

2023年度は、4年ぶりに再開し、関東地区は3月11日に、ビッグレッドファーム銚田トレーニングセンター様、KSトレーニングセンター様および松風馬事センター様のご協力をいただき、また関西地区は3月18日に、グリーンウッドトレーニング様、信楽牧場様およびノーザンファームしがらき様のご協力をいただき、日帰りでの見学会を実施しました。

2) 「BOKUJOB2023メインフェア」

2023年度の実施概要は、特集ページをご参照ください。

なお、2023年度の「BOKUJOB 関西フェア」は、昨年度と同様に実施を見合わせました。

3) 「研修コース合同体験入学会」

2023年度は、7月19日～21日【A日程】、8月16日～18日【B日程】の2日程（2泊3日）で、参加者29名（A・B日程合計）により（公社）日本軽種馬協会および（公財）軽種馬育成調教センターが実施する研修を実際に体験する「研修コース合同体験入学会」を実施しました。なお、「研修コース合同体験入学会」では、谷川牧場様、フジワラファーム様にご協力いただき、牧場見学を実施しました。

4) 「牧場で働こう体験会2023」

2023年度は、7月30日～8月4日の日程で、岡田牧場・目名共同トレーニングセンター様、グラント

牧場様、杵臼牧場様、谷口牧場・浦河育成センター様および笹島智則牧場様にご協力いただき、参加者15名により「牧場で働こう体験会2023」を実施いたしました。なお、「牧場で働こう体験会2023」では、(公社)日本軽種馬協会、(公財)軽種馬育成調教センター、ビッグレットファーム様および社台スタリオンステーション様にご協力いただき、施設見学等を実施しました。

5) 「BOKUJOB2023サポートデスク」

2023年度は、JRA 競馬場や馬術競技大会会場等で、以下の日程および場所でサポートデスクを設置し、牧場就業希望者に対する相談対応、BOKUJOB 活動の広報等を実施しました(いくせい第60号発行後に設置したサポートデスクも含む)。

【2022年度】

- ・10月8日～9日 地方競馬教養センター(とちぎ国体)
- ・10月26日～27日 福井県産業会館・石川県立音楽堂(日本学校農業クラブ全国大会)
- ・11月19日～20日 JRA 東京競馬場
- ・12月3日～4日 JRA 阪神競馬場

【2023年度】

- ・5月3日～5日 三木ホースランドパーク(全関西学生馬術大会)
- ・6月17日～18日 JRA 阪神競馬場
- ・7月1日～2日 JRA 中京競馬場
- ・7月19日～21日 ノーザンホースパーク(北海道体育大会)
- ・7月24日～25日 御殿場市馬術・スポーツセンター(全日本高等学校馬術競技大会)
- ・8月9日～10日 ノーザンホースパーク(全日本高等学校馬術選手権大会)
- ・8月11日 JRA 宮崎育成牧場
- ・9月2日～3日 JRA 小倉競馬場

なお、10月以降も、熊本県(日本学校農業クラブ全国大会)、三木ホースランドパーク(全日本学生馬術大会)で設置予定となっています。

6) 「Web相談会」、「Webフェア」

新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限下において、利用が一般的になったWeb会議システムを使用したWeb相談会を、参加牧場・団体の協力を得て

通年で実施しました。

2023年度は、11月4日、5日にWeb相談会を集中的に行う「Webフェア」を実施する予定となっていますが、いくせい第60号を発行後に実施した2022年「Webフェア(秋)」の概要は以下のとおりとなります。

- ・実施日 11月3日、5日および6日
- ・相談参加者 26名(計114面談)
- ・参加団体 15牧場、4団体

7) 競走馬生産・育成牧場就業応援サイト「BOKUJOB.com」等の運営

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、BOKUJOBでも多くの参加型・対面型のイベントの実施を見合わせるようになりましたが、その対応策としてWeb上でのBOKUJOB活動の広報や牧場就業希望者向けの情報提供にも注力してきました。

2023年度は、牧場就業希望者のインターンシップ(就業体験)利用が増加傾向にあることを踏まえ、「BOKUJOB.com」上にインターンシップ募集中牧場の検索機能を新たに設けることにより、インターンシップ希望者が情報収集する際の利便性の向上を図りました。

また、牧場の雰囲気や働く先輩方の声を伝える求人牧場紹介動画を制作し、「BOKUJOB YouTubeチャンネル」で配信を行っています。

なお、「BOKUJOB.com」での求人情報の掲載は無料となっておりますので、まだ求人情報の掲載を行っていない会員様におかれては、求人情報の掲載をご検討ください。ご利用をお待ちしております。

また、「BOKUJOB.com」では、牧場就業に興味を持つ若い世代を対象とした「BOKUJOBブログ」も開設しております。掲載内容は、生産馬の誕生や馴致開始など牧場での仕事に関することや牧場の日常等、特には問いません。こちらも、ぜひご利用ください。

軽種馬生産者等経営安定化（飼料等高騰対策事業）

令和5年度新規補助事業（NAR）として、軽種馬生産者等経営安定化（飼料等高騰対策事業）を実施します。本事業は昨今のコロナ禍、ロシアによるウクライナ侵攻、円安などにより、競走馬の育成調教に必要な飼料、資材、敷料等の価格が高騰している状況が継続し、育成調教技術者が大きな負担を強いられていることから、競走馬育成協会会員に対して給付金の交付による支援を行うものです。

※会員の皆様には、別途ご案内のうえ、本年度中に交付予定です（10月現在）。

お知らせ

競走馬マイクロチップ埋込推進事業終了のお知らせ

令和5年8月

日本中央競馬会
馬事部生産育成対策室

平素より競走馬マイクロチップ埋込推進事業にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

軽種馬のマイクロチップ埋込に係る助成は、軽種馬の個体識別をより簡便化するためのマイクロチップの埋め込みを推進することを目的として、平成17年の「マイクロチップ普及促進事業」から開始されました。その後、「マイクロチップ普及定着事業」「競走馬マイクロチップ埋込推進事業」と名称変更されながら現在まで継続してきましたが、令和5年現在では概ね100%の普及率に達したことから事業の目的は達成されました。このため、マイクロチップに係る助成事業は、現在実施中の事業の終了年度である令和6年をもって終了となります。

賛助会員のご紹介

2023年度、公益社団法人競走馬育成協会の賛助会員となっていただきました各社をご紹介します。

有限会社 アスコットコーポレーション

代表取締役 加藤誠
Tel.029-885-8199 Fax.029-885-6177
〒300-0427 茨城県稲敷郡美浦村布佐1870-8

“馬の健康を第一に考えるサラLG”

株式会社 テイクオー

代表取締役 萩原早苗
Tel.047-325-2000 Fax.047-325-2000
〒272-0033 千葉県市川市市川南2-4-12
市川ガーデンア512

株式会社 市原商店

代表取締役 今泉治武
Tel.077-558-0834 Fax.077-558-0885
〒520-3004 滋賀県栗東市上砥山2096

ベルテック 株式会社

代表取締役 竹下晋二
Tel.06-6991-9875 Fax.06-6991-9876
〒570-0044 大阪府守口市南寺方南通3-11-10

株式会社 三和メック

代表取締役 天野公夫
Tel.028-645-2741 Fax.028-645-2413
〒321-0105 栃木県宇都宮市横田新町18-6

北海飼料販売 株式会社

代表取締役 勢戸俊雄
Tel.077-554-2468 Fax.077-553-2001
〒520-3011 滋賀県栗東市下戸山127-1

株式会社 **タイワ**

代表取締役 長谷川和宏
Tel.0575-24-7111 Fax.0575-24-7110
〒501-3822 岐阜県関市市平賀811
E-mail horsseshoe@taiwa-co.com

株式会社 渡辺商店

代表取締役 渡邊義昌
Tel.03-3463-7661 Fax.03-3463-2715
〒153-0042 東京都目黒区青葉台3-6-12

JRA からのお知らせ

「禁止薬物・規制薬物の追加」ならびに「遺伝子ドーピング検査の開始」について

このたび JRA では、諸規程を整備して、禁止薬物・規制薬物を追加するとともに、規制薬物使用後に出走を控えるべき期間として新たに出走制限期間を設定しましたのでお知らせいたします。また、公正確保の観点から本会施設の内外を問わず禁止する行為である遺伝子ドーピングに対し、新たに検査を実施することとしましたのでお知らせいたします。

2023年 JRA 馬事部

1. 禁止薬物・規制薬物の追加

競馬の公正確保の観点から、日本中央競馬会競馬施行規約の改正により、禁止薬物を351薬物（現行114薬物）、規制薬物を230薬物（現行85薬物）とすることとしました（2023年1月1日公布、2024年4月1日施行予定）。またこれに伴い、薬物事案の未然防止の観点から、薬物施用後に出走を制限する期間（出走制限期間）を設定しましたので、併せてお知らせします。

この整理により、禁止薬物には、蛋白同化薬、ペプチドホルモン・成長因子、ベータ2作動薬、ホルモン調節薬・代謝調節薬、覚醒剤・興奮薬、強心薬、中枢神経刺激薬、血管拡張薬、麻薬、カンナビノイド、鎮静薬・催眠薬、ベータ遮断薬、抗精神病薬・抗うつ薬、全身麻酔薬、血圧降下薬に該当する351の薬物が規定されます。また、規制薬物には、抗炎症薬・解熱鎮痛薬、抗アレルギー薬、抗リウマチ薬、止血薬、骨吸収抑制薬、鎮咳薬、気管支拡張薬、抗緑内障薬・散瞳薬、消化管運動機能改善薬、利尿薬、抗不整脈薬、局所麻酔薬、貧血予防薬、高脂血症薬、骨格筋弛緩薬に該当する230の薬物が規定されます。

諸規程が施行となるまでの間（2024年3月末まで、以下、周知期間と呼びます）については、追加される薬物が競馬検体から検出されたとしても罰則等は適用されませんが、当該薬物の使用状況の確認など、詳細な原因調査を行います。これにより、周知期間終了後の薬物陽性事案を防止するべく取り組んで参ります。また、薬物の取締りの一環として、調教師および開業獣医師等関係者に対して出走制限期間一覧表を示し、期間内に実施される競走への出走又は出馬投票を制限することとしています。

2. 遺伝子ドーピング検査の開始

近年、遺伝子治療を競走能力向上のために不正利用する行為（遺伝子ドーピング）が世界的に課題となっています。JRA でもこれらの行為を抑止するため、2022年4月に規程整備を行い、公正確保の観点から JRA 施設の内外を問わず禁止する行為として遺伝子ドーピングを規定し、厩舎関係者に対して指示を与えることとしました。さらに、2023年からは、取締りの一環として、入厩検疫時に実施している競走外検査において、現在実施している薬物検査に加えて遺伝子ドーピング検査を同時に実施することとしましたので、お知らせします。

ご不明な点につきましては、JRA 馬事部アンチドーピング課までお問い合わせください。

お問い合わせ先

日本中央競馬会（JRA）馬事部 アンチドーピング課
〒105-0003 東京都港区西新橋一丁目1番1号
電話：050-3139-9537 FAX：050-3139-9719

◆ ホームページのご案内

【競走馬育成協会】

令和5年夏にホームページのリニューアルを行いました。

ホームページに毎週育成技術表彰対象会員情報を掲載しています。

他、各種事業内容等掲載されていますのでご活用ください。



【BOKUJOB】

生産・育成牧場就業応援のための情報を掲載しておりますのでご活用ください。



◆ ドメイン変更に伴うWEBサイト及びメールアドレス変更のお知らせ

この度、当協会では下記のとおり英語表記を改めるとともに、現在使用しているドメイン名の変更を行いました。つきましては、ご登録頂いていますWEBサイト及びメールアドレスを下記の通り変更下さるようお願い申し上げます。

■ 新表記 Association for Racehorse Rearing (ARR)

■ URL 競走馬育成協会 ホームページ

変更後 <https://www.arr.or.jp> または

■ メールアドレス

変更前 KGJ0052@nifty.com soumu@tttda.or.jp @の前は担当部です

↓ ↓
変更後 ikusei@arr.or.jp soumu@arr.or.jp (総務/soumu) (業務/gyoumu) (事業推進/jigyuu)

これからも皆様のお役に立つ情報の提供や内容の拡充に努めてまいります。今後とも弊協会業務にご理解とご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

いくせい

2023 61号

発行日 2023年10月1日
発行 公益社団法人 競走馬育成協会
〒105-0004 東京都港区新橋4-5-4
日本中央競馬会新橋分館4階
TEL 03(6809)1821 FAX 03(6809)1822
E-mail : ikusei@arr.or.jp
URL : <https://www.arr.or.jp>
編集責任者 和田信也
制作・編集 西谷印刷株式会社

